

世界戦争を止め、



◆「第3次世界戦争」の切迫

すべての学生のみなさん！「11・13パリ銃撃事件」は、わずか半月間ほどで、またたく間に全世界の主要帝国主義国・大国を巻き込んだ世界戦争へと発展しています。「第3次世界大戦の危機」とも言える事態です。

フランスは原子力空母からのシリア本格空爆に踏みきり、イギリスも空爆参加を決めました。そしてドイツも「戦後最大規模」である1200人のシリア派兵を決めました。



「非常事態宣言＝戒厳令」下のデモ禁止攻撃うち破り、パリ中心部で労働者が実力デモに決起！（289人逮捕、11月29日）



全学連

全日本学生自治会総連合(斎藤郁真委員長)

03-3651-4861 mail_cn001@zengakuren.jp <http://www.zengakuren.jp/>

11月24日にはトルコ軍がロシア軍戦闘機を撃墜。ロシア政府はただちにトルコへの経済制裁措置を発動し、まさに中東は、帝国主義国・大国が自らの利害と思惑をかけて軍事力で相争う一触即発の「世界戦争の発火点」です。

◆世界での労働者の反乱！

帝国主義国・大国が中東を舞台に、市場・資源・勢力圏の大争奪戦を行っていることに一切の「戦争の原因」があります。そしてまた、「国外への侵略戦争」は同時に「国内での首切り・非正規職化・貧困化」攻撃とも一体です。

「戦争と大失業」への全世界的な大反乱(ストライキ・暴動)が巻き起こっています。韓国でのパククネ打倒の民主労総の闘い(オモテ写真)、戦争当該であるトルコ、英、独での闘い(裏写真)。「生きさせろ！」を掲げた労働者民衆の決起が、戦争にのめり込む世界の支配者どもを揺るがしています。私たちの仲間はこちらにこそいます。

「国家v. s. 国家」や「民主主義v. s. イスラム国」に戦争の本質はありません。「資本家v. s. 労働者」の対立が核心問題であり、戦争でしか生きていけない帝国主義・資本主義を革命で打倒することで初めて戦争は止められます。イスラム国は、その労働者の闘いを襲撃する反革命です。

戦争を進める自国政府を打倒し、世界戦争の危機を世界革命でのりこえ、労働者が主人公の社会をつくろう。かつての第1次世界大戦は、1917年ロシア革命で止まりました。今こそ21世紀革命を大チャンスだ！

◆キャンパスから反戦決起を

9月に戦争法案を強行成立させた安倍政権は、中東戦争情勢で「蚊帳の外」に置かれながらも、必死で「戦争の出来る国」へ転換しようとしています。日米韓の朝鮮侵略戦争(=「作戦計画5015」)への参戦策動を許すな！

「戦争に対して大学はどうするのか?」「学生はいかに生きるべきか?」が問われているこの時、大学・教授はどうしようもなく腐敗しています。高い学費、「国策」への追従、学生からの自由の剥奪、…。こうした「新自由主義大学」のあり方そのものを、学生の実力行動で覆し、教育と学問を私たち自身の手に取り戻そう！

10月の京都大反戦バリケードストライキはその道を指し示しました。私たちもこの闘いに続こう！(12月2日)

【写真①】ドイツ・ベルリンの鉄道労働者がストライキ決起！ 無人の東ベルリン駅ホーム(今年5月)、【同②】今年2月1日から6週間、7000人が参加した製油所労働者のストライキ、【同③】ロンドンのバス運転手のストライキ(今年1月)、【同④】今年5月14日、「トルコのデトロイト」と言われる北西部・ブルサ市で自動車労働者5400人がストライキに突入！ 【同⑤】「朝鮮侵略戦争阻止！」を掲げ全国労働者集会に5700人が結集！(11月1日、日比谷野音)

